



堀 繁 先生 (東京大学アジア生物資源環境研究センター教授)

専門
景観デザイン
景観工学
計画設計思想史
地域計画

主な経歴
環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。
国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、建設省「道路環境計画」、農水省「日本の美しい村景観コンテスト」、水産庁「美しい漁村づくり」、環境庁「日本の音風景100選」、国土庁「地方振興方策のあり方に関する検討」、日本道路公団「高速道路景観整備実践マニュアル」など、国、公団、地方公共団体等の各委員会座長・委員等を歴任。



ひかり結ぶまち

かりや 景観れぽーと

テーマ
景観の見方

VOL.18

発行日:平成22年3月1日
発行:刈谷市都市計画課
TEL:(0566)62-1022

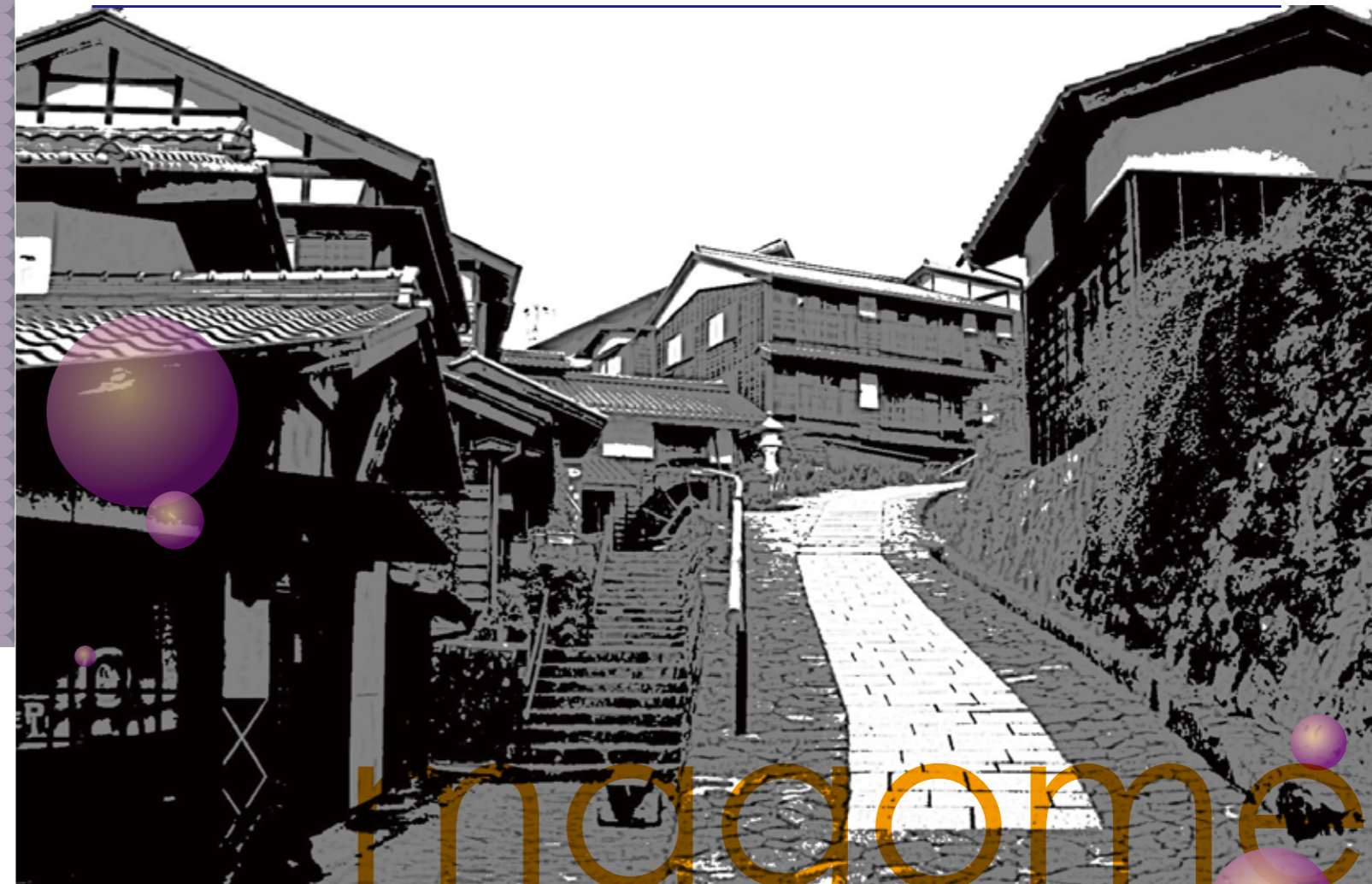
馬籠宿(まごめじゅく)

馬籠宿は中山道43番目の宿場で、現在は岐阜県中津川市にあり、木曾11宿の一番南に位置しています。

全長600mの石畳の坂道に沿って、軒の低い格子造りの家並みが宿場時代の面影を残しています。

明治28年の大火事により江戸時代からの建物は焼けてしまいましたが、その後復元されて現在の姿となりました。

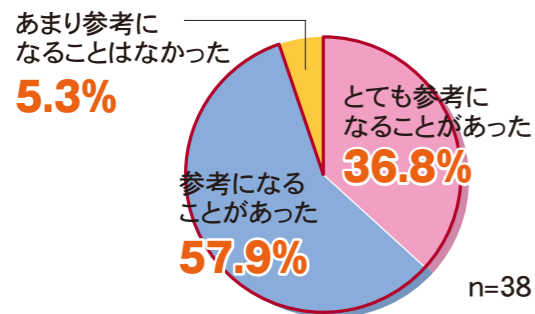
文豪・島崎藤村の生まれ故郷としても知られ、名作「夜明け前」の舞台にもなった宿場町です。



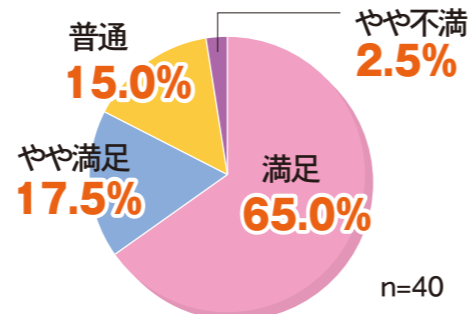
かりや景観づくり講座への参加者の声

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。ここでその結果の一部をご紹介します。

今後の景観づくりの参考になることはありましたか？



講座の内容はいかがでしたか？感想を教えてください。



どんなことが参考になりましたか？

- 店先にベンチと花などを置くことなら明日からでもすぐできることがあった。
- 家の前を通った人が、少しでも気持ち良く通れるよう考えます。
- 来訪者及び家族のもてなしの心遣いで家の前を装おうと思っている。
- 刈谷の商店街は、シャッターが下りている店が多く、もっともてなしの心がある店がたくさん入ると楽しい、明るくなるのに...
- どういうまちなみが人にとって気持ちが良いのかよく理解できた。
- 景観の意味を具体的に理解できた。
- 刈谷市として景観づくりに努力してほしい。市民もしっかりした考え方を対峙します。
- 人をもてなす心をもってまちづくりをする必要がある。車より人を大切にしたい道をつくってほしい。
- まちなみを保存することは、未来に文化を伝授することと学びました。
- 入りやすい店とそうでない店の違いが先生の説明のおかげでよくわかりました。
- 観光地を見るのに大変参考になりました。

今回の景観れぽーとは、平成21年11月に実施したかりや景観づくり講座* についてご紹介します。

今年は、一昨年度・昨年度に引き続き、景観まちづくりの第一人者である東大の堀先生を講師にお招きして、旧中山道の宿場町として江戸時代の面影を残している馬籠宿で「景観まちあるきin馬籠宿」を開催しました。

良い景観の見極め方や景観づくりのポイントについて堀先生に教わりながら、一緒に景観スポットを歩いてまわり、具体的に景観づくりの事例を学びました。景観づくりに精力的に取り組んでいるまちを見て、刈谷の景観をもっともっと良くしていくアイデアをたくさん見つけることができたようです。

みなさんも、いつも目にするまちなみへの見方をちょっと変えて、美しい刈谷の景観づくりについて考えてみませんか。

*かりや景観づくり講座
市民のみなさんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による都市景観づくり活動や、美しい都市景観の創出につながる機会としていただくことを目的に、平成15年度から毎年開催しています。

景観まちあるき 馬籠宿

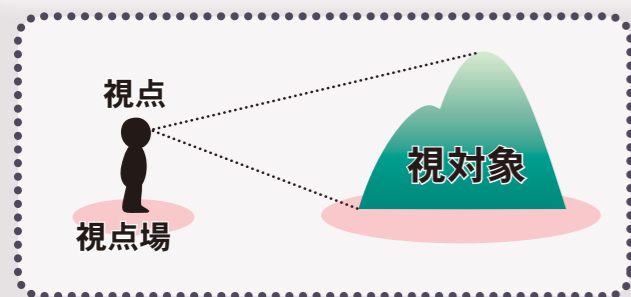
東京大学教授の堀繁先生を講師に迎えて、景観づくりの基礎のお話を伺いながら一緒にまちを歩いてまわり、具体的な景観づくりについて学びました。

1 「景観を理解しよう」

出発前に市役所にて講義を受け、スライドを見ながら景観の見方や基礎について教わりました。

景観とは

ある見る場所(専門的には「視点」といいます)から人間が見ることによって得られている像のこと。



見る場所(視点)が重要なポイント!

どちらの見る場所で風景を見たいですか?

写真1は、つま先下がりになっていて水面が見やすくなっています。写真2は、下に落ちると危険なため一番端に柵があって見えにくくなっています。

見る場所は居心地の良いことが重要で、私たちは見るということよりも、そこで楽しむということをずっとずっと大事に思います。一番良い理想の見る場所は、見ることを忘れてしまうくらい楽しいということ、それが大事です。



いいまちには、人間を大事にする「もてなしの表現」があふれています!

どちらのまちに行きたいですか?

写真3は、道路の舗装が石畳になっていて、車を通しませんよ、人間を大事にしているのでゆっくり歩いてくださいという表現です。写真4は、歩くことが許されている歩道の方が狭く、歩いてはダメといわれる車道の方が広いですね。つまり、人間よりも車の方を大事にしますよと言っているの、人間には居心地よく見えません。



景観まちあるき

馬籠宿に到着後、堀先生とアシスタントの堀温子さんと一緒に景観まちあるきを行い、良い景観づくりの事例を学びました。



恵那山を眺める展望広場を具体例として、居心地の良い見る場所のあり方を教わりました。



実際のお店の前で、店の入り口の舗装や飾られている植物、ベンチ等、さまざまな「もてなしの表現」の具体例を教わっています。



2 「景観をつくろう」

景観まちあるきの後、馬籠宿内の会場にてスライドを見ながら、まちあるきのおさらいをするとともに、景観についての理解をさらに深めました。

良い景観の条件

見たいものが見やすいこと(見たくないものが見えにくいこと)
見たものが、私のことを大事にしてくれている表現がたくさんあること

次の2枚の写真は、お客さんが減って衰退している温泉街の一角のものです。それぞれ下の写真(After)は、そこを訪れる人々に「見たいものが見やすいこと」「見たものが、私のことを大事にしてくれている」という表現を感じさせています。

これだけの变化でこの温泉街はよみがえりました。



Before
見たいまちなみが見えずに、私を大事にする表現がありません。



Before
観光客が休めるように整備された公共施設ですが、あまり人気がありません。塀があると入りにくく、舗装も車のためのものに感じられます。



After
共同浴場を移転させて、跡地に人々がくつろげる休憩スペースを作りました。



After
塀の一部だけを残して撤去し、足湯とギャラリーが一体となったカフェを作りました。若い女性が多く、とてもにぎわっています。